

# みやにつうしん 宮二通信

2005/11/30

第14号

## 古いため池、新しいため池

伊勢インターチェンジから伊勢自動車道を走ると山間に数多くのため池を見かけます。高速道路から見るとあっという間に過ぎ去ってしまう風景ですが、よく見ると山間の小さな沢に堰堤を築き、少しでも安定した水を確保しようとした先人の苦勞を垣間見ることができま

す。  
昔から農業を支え、暮らしに役立ち歴史や文化を育んできたため池ですが、全国には約21万ヶ所もあるといわれています。これらのため池の中にはいったい何時頃誰によって築かれたのかよくわからないものも数多くあります。農林水産省が調べたところ、この21万ヶ所のうち2ヘクタール以上の水田に水を供給している比較的大きなため池だけでも全国に約6万5千ヶ所あると言われております。そしてこのうち75%が江戸時代以前に築かれたものです。この中には弘法大師由来の満濃池のように歴史上の人物が深く関与した由緒あるため池も全国には数多く見られます。

一方、少し技術的にため池を見てみますと、当時は今のような大量に土を運ぶダンプトラックも、土を閉め固める機械もなかった時代ですから、当然、周辺にある土を人力で運び、人力で突き固められたものと想像されます。現在の基準で判断すると、池からの漏水が多くあったり、堤体が必ずしも安全でなかったり、大雨時ため池から溢れることがないようにする洪水吐がなかったり、あっても規模が小さかったりするため池が多々あります。しかしながらこれら昔のため池も少しでも漏水を少なくしようと堤体には近くで取れる粘土質の土を用いたり、堤体の上流側を保護するために工事中に出てきた大きな石を積み重ねたり、様々な工夫の跡が見られます。

さて、当事業でも斎宮池と惣田池を改修し新たに200万トンの調整池を築造いたします。堤体の高さは16m程で少し大きい目のため池の堤体のようなものです。

昨今、土木技術とコンピューターの発達により、構造物の安全性を高めるための技術は飛躍的に発展しました。新しい斎宮調整池は、例えばその土地で手に入る材料を工夫しながらそれに応じて堤体を作り出していくという古来から延々と引き継がれたため池固有の技術を基本に最新の土木技術を加味し、後世に長く残るような立派なため池を造っていきたくと事業所職員は心がけております。

(所長 米川 公一)

「**疏水百選**」投票受付中のお知らせ

見つけよう！あなたの**疏水**

お気に入りの**疏水**に投票してください

日本では、昔から水田を中心とした国造りが行われてきており、約二千年にわたって営々と築かれてきた農業用水路の総延長は、実に「約40万km」と言われ、地球10周分に相当し、ほとんど無数の水路群が、細かい網の目のように日本の国土に張り巡らされております。

農林水産省では、農村の高齢化、農業の国際競争への対応、環境意識の高まりといった状況の中で、美しく豊かな日本の農村「水・土・里」を、農家のみならず国民全体で保全し、次世代に引き継ぐことが必要との観点から、農業のための用水をテーマとして「**疏水百選**」の選定を実施しています。

農業や地域振興に効果を発揮している**疏水**、古くから地域文化に根ざしている**疏水**、自然豊かな**疏水**、生活用水や潤いの場として日常生活に欠かせない**疏水**など、あなたのお気に入りの**疏水**を見つけ、「**疏水百選**」の候補に投票してみませんか。

なお、投票時に**疏水**に関する情報や感想などのコメントをお寄せ頂いた方から、抽選で素敵なプレゼントを差し上げることになっております。

詳しくは、事務局(全国水土里ネット)ホームページ <http://www.inakajin.or.jp/sosui/>

・投票期間：平成17年10月20日～12月11日まで

・投票方法：インターネット、FAX、または、はがきにて受付けております。

・問合せ先：全国水土里ネット「**疏水百選**」実施事務局 TEL 03-3234-5480

「**疏水百選**」の発表は、平成18年1月末を予定しております。

まもなく締め切り！



## 伊勢神宮のはなし 第1回

古来瑞穂の国といわれた我が国は、生活の全てが稲作中心であり、お米をつくり、新米をいただくことで大神とつながるとされていました。そのため、お米づくりそのものがお祭りのようなものでした。

さて、伊勢の五十鈴川（いすずがわ）の川上、現在の地に神宮がお祀りされたのは実は今から2,000年以上も前の話になります。伊勢神宮のはなし第1回では、冒頭述べましたとおり古来瑞穂の国といわれた我が国稲作の原点が、ここ伊勢といわれる由縁をご紹介します。

その昔、皇室の先祖神である天照大神（あまてらすおおみかみ）は、孫に稲穂を授け「これを持って国を治めよ」と命じました。

時は経ち、今から約2,000年ほど前、大和の都に大和の地の神と共に祀られていた大神は、皇女・倭姫（やまとひめ）に託されて鎮座の地を求めて諸国をめぐることになります。倭姫の一行は、最終的に大神の鎮座の地を伊勢に決定されるまで、各地に滞在し『米一粒で万倍の大神の霊力を授かる』として稲作を普及しました。

伊勢神宮の神様である天照大神は同時に稲作の神様でもあり、大神をお祀りする聖地探しの旅の過程で稲作が普及しました。そしてこのとき各地に根付いた稲作が、現在米どころとされる北陸・東北地方にも伝播していったものと考えられています。これが伊勢の地が日本の稲作の原点といわれている由縁なのです。



## 花物語



### 【ウインターコスモス】

北アメリカ地方原産

晩秋頃咲き出す。

色は黄色又は、ほとんど白に近い黄色

別名「ビデンス」学名

## 言葉で綴る伊勢の旅（第5回）

冬本番となり、寒さも一段と厳しくなりましたが体調を崩されていませんか。  
今回は、「つむ」を取り上げてみたいと思います。

つむという言葉は、全国何処でも物を積み上げる等の意で使われていますが、伊勢地方では、そのような場合以外に、混み合うという意で使われています。

道路が混み合う、電車の中が混み合う等の場合に年配の方に限らず、幅広い年齢の方がこの言葉を使っています。

### 「つむ」

これからの年末年始、伊勢地方は伊勢神宮等への参拝客で1年間で最も人及び車で混み合い、そちらこちらから「よう、つんどるな～」という声が聞かれます。

また、混雑緩和のために多くの交通規制も行われます。

年末年始にこちらの地方にお出かけを予定されている方は、公共交通機関を利用されるか、自家用車の場合は、時間に余裕を持ってお出かけ下さい。

## 工事案内

### 鉄筋組立作業始まる！！

併設用水路工事（多気町土羽区、玉城町上田辺区）では現在、既設水路取壊し、掘削、鉄筋組立作業等を行っています。

作業には資材搬入車や大型ダンプの進入が伴い、近隣住民の皆様には大変ご迷惑をお掛けしていますが、ご協力の程宜しくお願いします。

近々、高校を対象にした現場見学会を開催予定です。読者の皆様も、ご希望がありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。



鉄筋組立作業状況

編集・発行：東海農政局宮川用水第二期農業水利事業所

〒516-0802 三重県伊勢市御園町新開 892

0596(31)0555 FAX 0596(31)0510

東海農政局宮川用水第二期農業水利事業所玉城支所

〒519-0414 三重県度会郡玉城町佐田 1769

0596(58)8787 FAX 0596(58)8810

ホームページアドレス

<http://www.tokai.maff.go.jp/nougyou/seibi/kensetu/miyagawa/miyagawa.htm>